

100年前の万国博覧会

今回取り上げたのは、札幌市在住の高橋勤氏から寄贈された、1911年にイタリアのトリノで開催された万国博覧会の表彰状です。表彰状の大きさは縦44・2cm×横56・0cmで、やや厚手の紙にカラーで印刷されています。

表彰状に向かって左側の女性の上に描かれた帯の「AUGUSTA TAURINORUM」(アウグスタ タウリノリウム)とは、トリノの古い呼び名で、この女性はトリノ市を象徴しているものと考えられます。反対側には老若男女が描かれていますが、これはトリノ市民で、全体にはトリノ市と市民が受賞者の榮譽を讃えるという意味が込められていると考えられます。このほか表彰状の各部には、さまざまな寓意図(ぐういず)がちりばめられており、興味は尽きません。

表彰状の周囲を縁取っているのは、参加国の国旗、紋章です。中央上部には「1861-1911」イタリア王国統一宣言50周年記念とあります。イタリアは長い間、ローマ、ミ

ラノ、トリノなどの都市国家が割拠していましたが、有名なガリバルディ將軍らの活躍により統一され、1861年にサヴォイア王家による立憲君主制がスタートしました。ミラノ万博が開催された1911年は、統一から50年目にあたる記念すべき年だったので、ちなみに1861年は、日本では幕末の文久元年にあたり、イタリアの統一は、よく同時期の明治維新と比較されています。

受賞者の高橋儀兵衛氏は、明治から大正時代の石狩町を代表する実業家の一人です。明治10年に石狩町に設置された日本最初の缶詰工場を北海道開拓使から引き継ぎ、缶詰工業の草分けとして知られています。また、水産加工品の海外輸出にも力を注ぎ、欧米などで盛んに営業活動を行いました。

高橋勤氏の寄贈資料には、1900年のパリ万博、1902年のハノイ万博の表彰状も含まれており、高橋儀兵衛氏の輸出にか



ける思いが伝わってきます。今回、イタリア語の解説および紋章等の意味、時代背景について、北海道日伊協会の松浦茂氏にご教示いただきました。心より感謝申し上げます。

(工藤義衛
ともえ)

①“Augusta Taurinorum”(トリノ市の尊称「大いなるトリノ」「母なるトリノ」の意) ②トリノ市の「雄牛」の紋章 ③トリノ市の“comune(共同体)”の象徴か ④産業と労働の万国博覧会トリノ1911年 ⑤イタリア王国統一宣言50周年記念1861-1911 ⑥サヴォイア王家(イタリア王国の君主)の紋章 ⑦収穫物を捧げる老若男女(トリノ市民の意) ⑧金賞 ⑨Takahashi Gihei(高橋儀兵衛)※高橋缶詰所のラベルはGihyoue(ぎひょうえ)となっている

■4月26日(火)～5月8日(日)
高橋儀兵衛とトリノ万博
—100年前の万国博覧会に挑んだ男—
下の表彰状を含む高橋勤氏の寄贈資料は、市民図書館研修室で展示します。ぜひご覧ください。